



首都圏

遠之架

富山薬窓会首都圏支部

目 次

支部長ごあいさつ	(85、H10年卒) 高瀬 明子	1
総会での話題提供①「PMDAでのお仕事」	(76、H元年卒) 朝倉 渡	2
総会での話題提供②「100年麴屋にみる 企業価値と自分らしさ」	(93、H18年卒) 神保 和功	3
寄稿 会社員、薬剤師副業始めました	(90、H15年卒) 伏木 洋司	4
寄稿 COVID-19感染記	(59、S47年卒) 清水 善行	5
寄稿 《随想》～四季折々を謡い舞い、囃す～	(46、S34年卒) 齊藤 諒三	6
寄稿 ICTとヘルスケア	(77、H2年卒) 齋藤みのり	7
寄稿 三金会の思い出	(60、S48年卒) 中西 憲幸	8
寄稿 薬剤師1年目を終えて	(109、R4年卒) 湯舟 春香	9
寄稿 私のアイデンティティ	(66、S54年卒) 大西 弘章	10
寄稿 身体蘇生-body Remake ……心とやかな仲間との語らい 健康で充実した歩みと共に……	(47、S35年卒) 小国 益男	10
寄稿 母校へ貢献してみたいと思った私	(76、H元年卒) 折戸 哲也	11
寄稿 5年目を迎えるにあたっての回顧	(106、H31年卒) 福田 拓己	12
ゴルフクラブ便り	(55、S43年卒) 石橋 嘉夫	12
ゴルフ同好会からのお願いとお誘い	(56、S44年卒) 金 知出	13
令和4年度首都圏支部活動報告		15
総会参加者・年会費納入者推移		15
2022年度 首都圏支部役員		15
令和4年度会計報告、令和5年度予算(案)		16
令和4年度 支部年会費納入者一覧		17
編集後記		20
令和5年度首都圏支部総会案内		21
令和4年度首都圏支部総会集合写真		22



同窓会活動からもたらされるもの

富山薬窓会首都圏支部長 (㊞、H10年卒) 高瀬 明子

日頃より富山薬窓会首都圏支部へのご支援ご協力を賜りありがとうございます。1年経つのはあつという間です。今年は桜が間もなく開花する頃にご挨拶をしたためております。首都圏遠久朶に寄稿いただいた皆様には大変ご多忙にもかかわらずご協力を賜り、心より御礼申し上げます。

この1年を振り返りますと、依然として新型コロナウイルスの影響を受けつつも、皆様のご協力のもと、Zoomの集い(3月)、首都圏遠久朶の発行(5月)、「三金会」の再開(6月)、首都圏支部総会(6月)、「三金会」とZoomの集い同時開催(9月)など、多くの活動を行うことができました。感染状況に注意しつつ、ようやく対面での集いを再開できて何よりでした。首都圏支部総会は、会場とZoomでのハイブリッド形式にて開催し、第44回から新卒者の第109回にわたる幅広い年齢層の方々にご参加いただきました。今年はさらに以前の状況に近付き、Face to Faceで交流する機会を設けやすくなると思います。オンライン形式併用などのコロナ禍によって得られた経験も活かしつつ、首都圏支部役員一丸となって、より活発に活動して行きたいと考えております。

さて、この首都圏遠久朶をお読みいただいている会員の皆様の中にも、同窓会活動に参加する意義やメリットがあまりよくわからないという方もいるかもしれません。今、改めて、私にとって富山薬窓会や首都圏支部からもたらされるものは何だろう?と考えると、その答えは「多様なバックグラウンドを持つ世代を超えた人々との交流によって、自分の視野が広がること」になりました。今の世の中、人脈を築く手段は同窓会でなくてもいくらでも存在しますよね。ところが、新たにゼロから築き上げる必要のある関係性よりも、大学時代を富山で過ごし薬学を学んだという共通項による結びつきの方が圧倒的に強く、安心できることを感じます。その安心感の中で、自分と異なる職業や境遇の方からは大きな刺激を受け、同様の職種の方からは新たな気づきを得ています。第2の人生を生き生きと楽しんでいらっしゃる先輩方の姿を見て、自分も将来そうなりたいと目標になります。総会での懇親会で知り合った方には私の後輩の就職相談に乗っていただいたこともあり、転職の際に首都圏支部でのつながりが一つの後押しとなった方もいます。将来老後を迎えた時を想像すると首都圏支部の集まりが貴重な機会になるのは間違いないと思っています。こうやって色々挙げてみると、同窓会のつながりから得られるメリットは大きいと感じています。

同窓会に対するイメージや思いは当然ながら人それぞれで、私の思いを押し付けるつもりはまったくございません。ただ一つお伝えしたいのは、首都圏支部からのご案内に少しでも興味が沸きましたら、いつでもお気軽にご参加下さいという点です。一度も参加したことがない/しばらく参加してなくて気が引ける/参加したら抜けられなくなりそう...ということは心配ご無用です。意外な出会いや展開が待っていて、あの時参加して本当によかったと思う日が来るかもしれません。

同窓会の恩恵を受けるばかりでなく、もちろん、微力ながら母校や富山薬窓会の発展に貢献できるよう一生懸命取り組んでまいりますということをお伝えし、冒頭のご挨拶とさせていただきます。

PMDAでのお仕事

(㊦、H元年卒) 朝 倉 渡

今から30年ほど前の大学院薬学研究科の修了間際、恩師の故 渡邊裕司先生（和漢薬研究所・生物試験部門）から『定年までに自身の手で創ったクスリを一つでも世に出せるよう仕事に励みなさい！』という趣旨の激励をいただき、民間企業への就職後は画期的新薬の創生を夢見て研究活動に励んでいました。当時の就職先では周囲からの多大な助けもあってちょっとした成果も得られていましたが、自らの能力不足もあって実際に新薬を世に出すための道のりはエベレストを超えるほどの想像以上に険しいものであることを改めて認識しつつ、恩師との約束を今後果たせるのだろうかという漠然とした不安感を抱きつつありました。さらに、バブル経済の崩壊に伴う金融機関の経営破綻やオウム真理教事件といった暗い報道も繰り返され、相当に凹んでいる時期もありました。

その当時、ソリブジン事件、薬害エイズ事件、薬害肝炎等が社会問題化したことを契機として、厚生省（現 厚生労働省）は医薬品等の審査・安全体制の強化策の一環として国立医薬品食品衛生研究所に医薬品医療機器審査センター（Pharmaceuticals and Medical Devices Evaluation Center: PMDEC）を設置し、新たな薬事規制の体制整備を図っていました。偶然にも、実験の合間に立ち寄った社内図書室の書架にあった薬学会機関誌「ファルマシア」の閲覧中に、厚生省が新組織の発足に当たり審査担当者を公募していることを知りました。これを契機として、恩師からいただいた言葉を「定年までに自身の手で創ったクスリを一つでも世に出せるように仕事に励みなさい！」と勝手な自己解釈で二重取り

消し線を付して強制リセットし、1999（平成11）年に設立後間もないPMDECに飛び込みました。

PMDECでは主に新薬の承認審査業務等に数カ月間従事し、その後に出向した医薬品副作用被害救済・研究振興調査機構（Organization for Pharmaceutical Safety and Research: OPSR/KIKO）では新薬の治験相談に関する業務に携わる機会をいただきました。2001（平成13）年12月、特殊法人等整理合理化計画が閣議決定され、独立行政法人医薬品医療機器総合機構法（平成14年法律第192号）に基づいてPMDEC、OPSR及び財団法人医療機器センターの一部の業務が統合された医薬品医療機器総合機構（Pharmaceuticals and Medical Devices Agency: PMDA）が2004（平成16）年4月に発足し、朝倉のPMDAでのお仕事が始まりました。

PMDAは、①医薬品の副作用や生物由来製品を介した感染等による健康被害に対して、迅速な救済を図り（健康被害救済）、②医薬品や医療機器等の品質、有効性及び安全性について、治験段階から承認まで一貫した体制で助言・審査し（承認審査）、③市販後における安全性に関する情報の収集、分析、提供を行う（安全対策）ことを通して、国民保健の向上に貢献することを目的とする非公務員型の中間型目標管理法人です。PMDA設立前後は、ドラッグ・ラグやデバイス・ラグが社会問題化し、各方面からの批判を火だるまのように浴びてかなり厳しい時期もありました。

PMDA設立以降、旧 薬事法（昭和35年法律第145号）は医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律に名称が改められ（平成25年法律第84号）、最近も法律の一部改正（令和元年法律第63号、令和4年法律第47号）によって薬事制度全般について見直しが図られてきました。PMDAの職員は、新たな審査制度（先駆的医薬品等指定、特定用途医薬品等指定、条件付き早期承認、緊急時

の薬事承認等) や新たに構築された安全情報収集体制の利活用、添付文書の電子的提供、バーコード表示、信頼確保のための法令遵守体制、薬剤師・薬局のあり方の見直し等の大きな医療環境の変化に対して、確実かつ速やかに対応すべく、PMDAの理念に従って日々の業務を進めています。

今回の講演では、PMDAでの審査関連業務に限らず業務全般について紹介させていただければ幸いです。

話題提供②

100年麴屋にみる 企業価値と自分らしさ

(㊦、H18年卒) 神保和功

頭脳明晰な方々が集うこの場で語るにあたり…。必修の体育を出席せず留年を果たし、神々のごとく寛容な先生方の再々試に導かれ、友人と結託し卒試制度を撤廃したと噂される私ごときが語るひと時。期待値をどん底まで下げ臨んでいただければ幸いです。

私が代表を務める神保栄三久商店は、新潟出身の初代が栃木県は日光に移り始めた麴屋を起源とし、本年で創業121年目を迎えます。味噌の醸造元として長年地域の食文化を支えて参りましたが、近年では甘酒や調味料、菓子類、他社OEM製品の開発製造など、幅広いブランディングを進めています。

なぜ麴屋の倅が薬学を学びに先祖所縁の日本海側へUターンしたのか…。そこは講演当日お話しするとして、卒業後は東京へ移り洒落た漢方相談薬局を全国に展開する某企業で薬剤師として勤務。そこでの経験が今日の舵取りに大きく影響することになりますが、これも当日に。

醸造元と聞くと老舗で敷居が高く裕福とい

ったキラキライメージを持つ方もいると思いますが、蔵元数は半減。個人消費量も半減。原料コスト倍増。流行もなく映え要素ゼロ。私が幼少を過ごした、かつて味噌業界にとって最盛期と呼ばれた時代は遠い過去の話です。15年前、勤め先の上司と大喧嘩した勢いで家業に入った私を待ち受けていた「あれっ？」という記憶とのギャップ。新たな風向きによる舵取りを弊社も迫られていました。

前置きはここまでとして、個人の意見として先に結論から言えば、弊社のような零細企業は、時代のニーズに沿って細やかに変革する大手のマーケティングと住み分ける意味でも、独自の企業価値を代ごとに描き確立する必要があります。それこそ職種を変えてでも。必需品としての需要に甘え、変革を求めずにいた蔵元が近年次々と姿を消していく、それが醸造業界の現状です。

企業価値を描くことは己のカラーを見出すことに始まり、それらを塗り重ねるキャンパスは企業の強み、いわば根幹です。カラーとは代ごとに描く個性「付加価値」であり、時代の流れに合わせ自由に創造することができます。一方、キャンパスの大きさや程度が悪ければ一切の価値も創造されません。

私がこのことに気付いたのは、家業を継いでから数年が過ぎた頃。地元の企業とコラボして味噌菓子を作ってみたり、趣味のデザインを活用して商品ラベルやカタログ、挙句の果てにHTMLをマスターして通販ページを自作したりと、私なりの世界観を表現したものの業績は回復せず。能力の無さに打ちひしがれていた時、巷で人気を博していた某冷やし甘酒と出会います。親類が土産としてくれたのですが、立派な箱にお洒落なデザイン瓶。ストーリー性抜群の原料と歴史が紹介された解説書。その世界観に完全に魅了された私は、早々にグラスに注ぎグビッといっ…

(;・▽・) まずいよ〜っ!

…この経験で私は、キャンパスとしての弊社の本当の強みに気付くことになり、現在に至るまでの舵取りと、業績の回復に繋がっていきます。とまあ、字数の制限を大幅に超えてきましたので、ここの辺りでそろそろ。更に詳しい経緯や現状、業界のちょっとした裏話なども交え、当日は皆様の貴重なお時間を頂戴いたします。

最後に重ねて申します。薬学的見地からといったアカデミックな話は一切ご提供できません。ですが、朝餉の一杯に込められた醸造屋の想いを感じていただけたら幸いです。今回は会場にて、私が3年の歳月をかけ開発した極上の冷やし甘酒（ノンアルコール）を皆様にご提供させていただきます。期待値のどん底を突き破らないための保険ですので、是非是非ご堪能いただければと思います。当日はどうぞ、宜しくお願いいたします。

会社員、薬剤師副業 始めました

(㊟、H15年卒) 伏木 洋 司

昨年からふとしたきっかけで会社員の私が薬剤師としてお手伝いを始めました（会社に内緒ではなくきちんと兼業許可を取りました）。

私が住むつくば市は学園都市というだけあって私のように製薬企業や公的機関の研究者が多く、配偶者が薬剤師さんで働いているケースもあつたりして県内に薬学部は無いものの薬剤師さんの充足率は高いです（引用：H28 茨城県地域医療構想）。しかしつくば市から少し離れて茨城県の県西地区と呼ばれる地域は薬剤師不足が顕著で、週末に開局できず困っている薬局も少なくない状況があります。富山で薬学の勉強をして薬剤師免許は取ったものの、院生時代に婦中のドラッグスト

アのバイトでしか生かせていませんでしたので、時間のある週末だけでも薬剤師として役に立てないかと思いお手伝いに行くことにしました。

とある耳鼻科門前薬局で初めての勤務時、学生実習以来の調剤室で感じたことは「20年前と同じ！」でした。調剤棚、分包機、液剤のメスシリンダーetc…粉をまく操作は慣れる必要がありましたが、その他は基本同じで昔の記憶が使えたことは良かったです。ただ、何かが変わっていてもいいのでは、と思ったのが最初の感想でした。電子レセプトも、紙のレセプトすらも知らない私には簡単なシステムですんなり慣れたのですが、人生で初めての経験は服薬指導でした。これは薬剤師がしなければならない重要な役割です。製薬企業で研究をしていたので病態生理や薬理・ADMEの知識はあるものの、実際の患者さんから聞く声は本当に貴重で、いかにその声を反映した服薬指導をすることが大事か痛感しています。我々企業で話をしている「治療満足度」という指標が実際の患者さんの満足度と乖離しているのでは？と思ったことは薬局で患者さんとお話をして大きく感じたことです。新薬開発をする判断に治療満足度の高い疾患は選択しませんが、だからといって患者さんが困っていないということではないのです。あくまで治療満足度という指標は医療提供側からの指標であり患者さんの主観ではないことを、薬剤開発を担う我々は理解すべきだと実際の患者さんと触れ合うことで感じています。もう一つ患者さんとのやり取りで感じることは、いかに薬剤師の役割が極めて限られた情報の中で判断し患者さんから情報を引き出すことが重要かということです。患者さんはお医者さんに自分の病状を話して処方箋をもって薬局へお越しになるので、薬局で再度の病状説明は二度手間です。薬を出してもらっただけの場所と思っている患者さんも多

いのですが、実際にお話をしてみると明らかに薬剤起因の副作用を我慢していた、やお医者さんには言いづらいことがあった、などありました。話を聞き出すにはある程度の時間がかかるのですが、この引き出す部分と想像力を働かせて訊ねる部分をオンライン処方やAIに任せることができるようには感じませんでした。むしろもっとウェットにじっくり話ができる服薬指導にもニーズがあるのではと感じています。

まだ始めたばかりでかじった程度の薬剤師の実地経験ですが研究現場へ持ち帰ることができること、また企業目線で薬剤師の臨床現場へフィードバックできることも多くありそうです。違った視点で双方向のいい影響をこれから作っていきたいと思います。

COVID-19感染記

(69、S47年卒) 清水善行

日本国内でCOVID-19感染者が2020. 1に確認されて以来、変異を重ね何波もの流行を繰返して、感染者は2200万人以上(2022. 10現在)となりました。

私は、2021. 5月と6月にファイザーのm-RNAワクチンを、3回目を2022. 2月に接種していましたが、3/11にCOVID-19陽性と判定されました。ワクチンを接種し三密を避けていても感染しましたので、皆様のご参考に、経過を報告します。

- ・3/9から咳と痰が出だし、例年の花粉症と思いアレグラ(花粉症薬)を服用。
- ・3/10夕方に発熱37.8度、カロナール(解熱剤)を服用。
- ・3/11熱は36.3度に下がったが心配だったので、妻が手伝っているかかりつけ医の発熱外来を10時に受診。鼻腔部位粘液の抗原検査で、妻と共に陽性と判定されました。かかり

つけ医はHER-SYS(感染者管理支援システム)に入力すると共に、高齢でしたので経口薬の処方を考えて国立病院機構S病院に連絡して頂きました。待合室に居ると10分後に病院の先生からスマホに電話が有り、13:30に自家用車で病院の救急外来受診を指示されました。

13:30救急外来の駐車場の車中で待っていると、看護師による受付説明の後、先生から電話による問診があり、救急外来で血液検査・胸部CTの後、先生から電話で経口薬を処方との連絡。看護師が、最新の経口新型コロナウイルス感染症治療薬のパキロビットパック(ファイザー)5日分を持参。

15:40帰宅。パキロビットパック内服を開始。
16:00 A保健所から電話あり、MyHER-SYS(新型コロナ健康状態入力フォーム)への登録入力の依頼(PC・スマホ・電話から選択)、困った時の電話先、パルスオキシメーターの有無、支援物資要望の確認がありました。

・3/12午前にスマホを確認したら、SMSアプリ(メッセージ+)に厚生労働省から連絡が入っていた。自宅待機中の注意事項、MyHER-SYSへの毎日の入力依頼、等。夕方には解熱し、全く日常と変わらない状態です。

・3/20まで自宅待機。発熱・咳を含めて全く症状なしで、外出できない事以外は普通の生活です。毎日午前にA保健所からスマホにSMSが届き、厚労省下のMyHER-SYSに体温・SpO₂・症状の有無を入力するだけです。普段しない箇所の掃除・片付け・読書で、時間を過ごし、買い物もネットスーパーが有るので問題なしでした。

・3/21午前にA保健所からスマホに、自宅待機終了のメッセージが入り、やっとフリーとなりました。

メッセージのリンクで宿泊・自宅療養証明書(新型コロナウイルス感染者専用)を請求し、1か月後に受領しました。

ワクチンを3回接種しても、心当たりは有りませんがCOVID-19に感染する事を実感しましたが、重症化はしませんでした。後遺症も出ていません。

皆様も、お気をつけください。

《随想》 ～四季折々を謡い 舞い、囃す～

(④⑥、S34年卒) 齊藤 諒 三

あしたに仰ぐ立山の、雄姿に夜の夢冷めてと校歌に謳われる立山連峰の四季の移ろいを眺めながら学んだ奥田の地を旅発ってすでに幾星霜。

老後の趣味として親しんできた謡曲の一節に諸国一見の旅の僧が、越中国の立山の霊場にこもって修行する立山禅定(修行)を志し、立山の霊場の地獄の有様を目の当たりに眺めて下山するくだりが出て参ります。(謡曲;善知鳥(うとう)の前場)

この曲を謡うときには、学び舎から望んだ立山連峰の雄姿が脳裏に浮かびます。

思い起こせば、私が謡曲に初めて接したのは一般教養の2年生の時でした。北海道留萌市出身の東一俊君の誘いで文化部として謡曲サークルを立ち上げ、加賀宝生(流)の先生のご指導の下、15名程で稽古を始めたのが発端となります。

その後、専門課程で奥田校舎に移り、謡曲の先生のご指導も受けられなくなり謡曲サークルは自然発生的に稽古から遠のいていきました。

その後は、能楽に接する機会も無く、会社(武田薬品)の仕事も忙しくなり、謡曲のことは、すっかり忘れ去ってしまっておりました。

40代に入り、とある日レストランで夕食を楽しんでいた時に、近くの席で能楽師の先生

とおぼしき方が数名で賑やかに会食をされていました。

その中のお一人が、帰り際に私に名刺を差し出され、お騒がせしたお詫びに、機会があったら能舞台を観に来てくださいとおっしゃり、名刺の裏に無料招待する旨のメモをしたためて頂きました。

名刺を拝見しますと、梅若能楽学院会館(東中野)、梅若 某とありました。

もうその時の名刺は手元にはありませんが、梅若六郎家のゆかりの方と思われます。

恐れ知らずで、早速に頂いた名刺をもって、能舞台の演能を鑑賞に出かけました。

演目は、世界的に高名な免疫学者、多田富雄氏(東京大学名誉教授)の新作能「無明の井」～我は生き人か、死に人か～でした。脳死と臓器移植を取り巻くおぞましき、無慈悲さ、悲しみで溢れた舞台でした。これが私の能舞台の演能に接した最初の機会でした。

もう一つの転機は、家内が母方の祖父が親しんでいた観世流謡本150冊ほどを我が家に持ち帰っておりました。私はそのことには全く気付きませんでした。

ある日、外出から帰りましたら、部屋一杯に謡本が虫干しされていました。

丁度その頃、老後の楽しみを模索しておりました時でしたので、早速に観世流能楽師の師匠について謡曲と仕舞を習うことにいたしました。

なかなか、声が出ず何時までも初心者段階で、家族からも雑音扱いされました。

それでも紋服袴を揃え、初舞台は靖国神社の野外能舞台でした。

時節は春、櫻の花弁が舞台に舞い、斜陽が舞台の雰囲気醸してくれました。

舞台後の反省会一杯が舞台での不出来を忘れさせてくれました。

そうこうするうちに、謡いと仕舞のほかに囃子を習ってみたくなり、大倉流小鼓を家元

の内弟子の若い先生に習うようになりました。

幾年間か世田谷三宿の大倉流家元・大倉源治郎師（人間国宝）の稽古場へ通いました。

余談ですが、能を大成した世阿弥の言葉として「初心忘るべからず」がありますが、未熟だった頃に戻るという意味ではなく、「10年目には10年目の初心があり、1年目の初心には戻ってはいけない」という教えです。

能は、楽器の音色や声も耳に美しく響き心地良いので、上演中に夢の世界にぐっすり旅立ってしまわれる方もちらほら見かけますが、“良い能ほどよく眠れる”とも言われますので、眠ってしまって堪能するという贅沢な鑑賞の仕方も有りかなとも思います。

なお、この3年間は新型コロナウイルス感染禍の為、外出の自粛を強いられ、オンライン（ZOOM）謡会に参加して参りました。

普段ご一緒することのできない遠隔のお仲間とも交流を図ることができました。

また、最近では、新しい試みとして令和3年には、能とクラシックバレエとのコラボ企画として、能の定番メニューであります「羽衣」を2回ほど能舞台で共演しました。

令和4年は、同様のコラボ企画で、男女の別れと邂逅をテーマにした能「班女」を取り上げています。

さらに、この数年前より、次の世代への能楽の継承を目指して、千葉県から「能楽ふれあい体験事業」を受託して、県下の小中学校で学童を対象に“能楽普及体験講座”を開催しています。

受講者は延べ3000名近くになりました。今後も継続していきたいと思っています。

末筆になりましたが、問題も抱えています。700年近い伝統を継承してきた能楽ですが、最大の悩みは謡曲愛好者人口の減少と高齢化です。

その意味では、能楽普及体験講座などが、

将来世代の掘り起こしに繋がることを期待したいと思います。

結びとして、料理が身体を作るものだとしたら、能楽や芸術は人の心を育てるものだと思います。素材の良さを引き出して、その自然の恵みをお料理として口にすることで私たちの身体はできています。

一方、能楽は人の身体を通して舞台上で演じ、人を取り巻く世界を感じていただくことで、人の心を育むものだと思います。

千葉県能楽連盟 会長 齊藤 諒三



竹生島連吟



能楽体験教室（小鼓）

ICTとヘルスケア

(㊦、H2年卒) 齊藤 みのり

2021年3月に製薬会社を退職し、ご縁をい

ただき今はIT企業と呼ばれる会社で、ヘルスケアに関する事業開発、ポートフォリオマネジメントをさせていただいています。

世の中では、デジタルトランスフォーメーション（DX）の重要性が謳われ、日本においてもその認識と活用が高まっています。これまで医療というと、具合が悪くなったら病院に行き診察と診断を受け、処方箋をもらって薬局に行き薬をもらう、という流れ（ペイシエントジャーニー）が思い描かれるくらいでしたが、これらのプロセスにおいても、より利便性の高いものによって変わっていくでしょう。コロナパンデミックを経験し、オンライン診断やオンライン薬局の流れも見えてきています。また、ウェアラブルデバイス等で、日常的に身体データが計測できるようになってきて、それらにより病気の予兆を捉えられるようになるのではないか、あるいは病院受診のすき間のデータも取得、ドクターとシェアできるようになる、など未来の医療の姿はより範囲が広く、これまででなしえなかったモニタリングと管理ができる世界がやってくることでしょう。

さらには、AIを活用した創薬への貢献も実例が出つつあります。現在所属している会社でもAI等を活用し、がん患者さんからネオアンチゲンを特定し、個別化がんワクチンを設計、研究開発に取り組んでおり、その進展に大いに期待しています。

これらの動きは「大量の情報が、速やかに処理できるようになった」技術の進歩に由来しています。ICTの技術で、ヘルスケアに関するペインポイント（課題点）への解決につなげていく、そのような世界の実現にワクワク感を感じ、微力ながら貢献していきたいと思っています。

学生時代はこのようなキャリアを思い描くことはなかったですが、無駄な経験は何一つない。それを日々体感しつつ、人生100年時代

にできるだけ長く社会との接点を持ち続けたいと考えています。

なお、このように大きく変わる世の中において、大学教育において取り組まなければいけない範囲も変化の局面なのではないかと感じます。データサイエンティストの育成が喫緊の課題であることは周知として、新たなビジネス創出のための課題抽出と解決策の描き方、ICT専門家との相互理解、融合領域での研究など、今なすべきことは多くあるのではないのでしょうか。

薬学部においても、ぜひそのような新しい学びに取り組んでいただけると良いと思う今日この頃です。

三金会の思い出

（60、S48年卒） 中西 憲 幸

三金会はいつから始まったのか、手帳を紐解いてみました。2009年4月17日（金）に初めて三金会が記入されていました。参加者は7名で、今は亡き柿崎さんと井本さんも出席されています。しかし、2月19日（木）、3月19日（木）には三木会として開催されていますが、ここでは2009年4月17日（金）を初めての三金会開催日としておきます。

三金会のルーツは近畿支部なので、加藤健二さんが開催場所の「多津よし」にちなんで、薬多津（やくたつ）三金会と命名されました。

東池袋にある牛タン屋「多津よし」は私の前職の職場に近く、厚切りの牛タンがとびきり美味しく、広い小上がりを第三金曜日に借り切ることができるので、開催場所に決めました。

写真は週刊ダイヤモンドの2007年11月に「部課長推薦この料理」に、私が取材されて掲載されたものです。



薬剤師1年目を終えて

(109、R4年卒) 湯舟春香

三金会は2020年2月までは毎月開催していましたが、ざっと130回開催したことになります。2018年6月21日(木)には首都圏支部総会の来賓の酒井薬学部長にお越しいただき、過去最大の18名が集いました。

当初はアメリカ産の牛タンでしたが、BSE問題が起り、オーストラリア産に変わりましたが、牛タンの味に変化はありませんでした。

コロナ禍のため、2020年3月～2022年5月までは三金会開催を中止していました。この間、「多津よし」は営業を続けていましたが、奥様が急逝され、大将一人で切り盛りするため、小上がりを使うことが出来なくなりました。また牛タンは消費量の増大と物価上昇の影響を受けてとても高くなってしまい、「多津よし」での開催を断念しました。

「まん防」が解除されたので、2022年6月以降に河岸を変えて開催しましたが、参加者が少なく、コロナが再燃したので中止の状態が続いています。

新型コロナウイルスの感染症分類は2類以上相当ですが、季節性インフルエンザのように5類になれば、再開する予定です。牛タンの三金会を開催できないのは残念ですが、新たな開催場所を探し、若手にも三金会を担ってもらい、三金会をリニューアルしたいと思います。

その節には多くの皆さま方のご参加をお待ちしております。

この度は首都圏遠久栄への寄稿の機会をいただきありがとうございます。109回卒の湯舟春香と申します。大学時代は病態制御薬理学研究室で笹岡利安教授、恒枝宏史教授、和田努講師のご指導の下、「嗅覚系を介した脂質利用の調節機構とその生理的役割の解明」について研究を行っていました。現在は病床数約750床の総合病院で薬剤師レジデントとして勤務しています。

薬剤師1年目は調剤業務、抗がん剤混注業務、DI室業務、麻薬管理業務などセントラル業務を回り、基本的な業務や知識を身に付けました。学生の頃の実務実習では、指導薬剤師が傍にいて間違いがないか確認してくれました。しかし、今は自分自身が調剤・監査した薬剤が患者さんの手元まで届いたり、自分が処方設計した用法用量で実際に投与される場面があるため、薬剤師としての大きな責任を感じています。

さらに、セントラル業務と並行して、病棟業務も行っています。レジデントでは2か月ごとに病棟をローテーションするプログラムが組まれているため、業務を行いながら様々な疾患や治療について学んでいます。目の前の患者さんに対して薬剤師としての価値を見出す上で苦労したことは、大学のテストや国家試験とは違い、正解がないことです。同じ疾患でも患者さん毎に抱えている問題点や望む医療は異なるため、ひとりひとりに最適な介入を考える必要がありました。例えば、最初は化学療法の支持療法について薬剤特性のみに着目して検討を行っていました。しかし、化学療法を行う目的や患者背景、臨床試験の結果などを総合的に考慮しないと患者個々に適した判断ができない、と指導薬剤師から指

摘され、処方提案について再考したことがありました。また、ある患者さんでは、食べ物と相互作用がある薬剤が導入されたため、普段の食生活について聴取し、食べても影響が少ないと考えられる具体的な量について調べて指導しました。このように、指導や介入に決まった正解の型はなく、患者さんにとっての最適解を自分で見つけていかなければならない難しさを感じました。まだまだ知識不足を痛感する場面も多く、夜中まで勉強したり、調べ方やアプローチ方法について先輩薬剤師に指導してもらいながら日々試行錯誤しています。患者さんの背景まで考慮した指導や処方提案、副作用の対応に取り組むことで、「適切で安全な薬物治療を通して、患者さんの人生をより豊かにできる薬剤師」を目指して今後も精進していきたいです。

この1年を振り返ると覚えることが多く、目の前の仕事をやること、慣れることで精一杯でした。2年目からは中長期的な目標を立て、視野を広くもって生活していきたいと考えています。そのために、薬窓会の方々にもたくさんお話を聞き、アドバイスや経験談を伺いたいです。どうぞよろしく願いいたします。

私のアイデンティティ

(66、S54年卒) 大西弘章

競争を好まず自分らしさを失いたくない。でも、ある程度、評価が気になる性分。それが、企業の中で競争や比較に曝されながらも、ようやくたどり着いたリタイア。自分の中では、他者から目に見える「会社や屋号」などを自分のアイデンティティの大きな部分を占めてきた。

今更と思われるかもしれないが、ようやく「自分そのものが自分のアイデンティティ」

と認識するように、少し進化。

強みもなく自信を持ってない弱さを見せたくない時期を、虎の威を借りて社会を渡ってきた自分を、素直に振り返ることができるようになりました。

ということで、リタイア後しばらくして奈良の実家で始めた個人事業「ベーグル&プチラボ ナッツくん」が、私のアイデンティティの表現型の一つになっています。結局、薬剤師がやっている“拘り満載の変ったベーグル屋”という類のないイメージが定着してきました。宣伝広告もせず、細々と営業中！

ベーカリー業界では、新規オープン店の5年生存率は20%とされ、予後の悪いがんのような厳しい業種です。さてさて、これからどうなっていくのか？同窓のみな様には、是非、ご注目をお願いいたします。

事業または私の近況は、お手数ですがホームページをご笑覧ください。

ホームページQRコード



身体蘇生—body Remake ……心和やかな仲間との語 らい 健康で充実した歩み と共に……

(47、S35年卒) 小国益男

多くの方々がコロナ禍でカラダを動かす機会を失いました。体の衰えは気付かないうちに忍びくる。

カラダを動かし足が手に刺激を与え、カラダの機能呼び戻すと溢れる活力と笑顔が生まれてくる。いつまでも若々しいカラダ作り

へ、新たな一步を踏み出そう。

同じ学舎の先人達が順々に築き重ねた「薬窓会ゴルフ同好会の集い」も今年で100回記念を迎えます。年、春秋二回（4月、10月）20名近い仲間が緑の芝生に集い語り、カラダ作りを続けている、楽しい挑戦の場です。

穏やかな顔なじみの仲間と会い、交わせし笑顔と爽やかな挨拶、素敵な仲間とのプレーの歓び、交流を通じてもうひとつの自分を発見する。

年齢を重ねる度に、人生が輝きますように自分のカラダを整えながら動けるカラダ作りを今日から仲間と一緒にゴルフを始めませんか！

明るいお声をお待ちしています。

幹事：石橋 嘉夫、石井 誠司

母校へ貢献してみたい と思った私

（㊟、H元年卒） 折戸 哲也

平成元年卒（76期）の折戸です。5年前に「ドタバタCRO創業記」を掲載いただきました。今回は「富山大」で始まった「古いけど新しい」漢方薬の「新薬開発」に携わらせていただく機会に恵まれましたので寄稿しました。「漢方薬はもう新薬開発の領域ではないよなあ？」「漢方薬は効果の主成分が曖昧だし」「治験なんてできないだろう」という先入観の塊の私にとって、富山大の漢方薬治験の話は「えっ、今ごろ漢方薬の新薬開発？」が正直な感想でした。ネットで「ググる」と、なんと、漢方薬は私が生まれた「1960年代」に「148製品」が薬事承認されてから「新しい漢方薬は承認されていない」ということでした。そんな中、「漢方薬の新薬開発」を「くすりの富山」で始めるというのです。この活動は、臨床開発に30年以上も従事してきた私にとっ

て、「斬新さ」、「アグレッシブさ」を感じました。そして、その活動を通じて「富山大 同窓生」の「潜在力」を感じました。「臨床開発」という職種は、今でこそ「ググる」と色々なwebサイトがでてくるほど「世間でも認知」されています。しかし、私が富山大を卒業した30年以上前、「臨床開発って何するがぁ？」（富山弁）という状況で、「臨床開発」領域に就職する同級生や先輩は僅かな「レア職種」でした。大学を出た私は製薬企業の「臨床開発部門」に配属され、私の臨床開発の人生が始まりました。意外だったことは、その会社で富山大薬学部の先輩たちが中心メンバーとして活躍されていたことでした。30年前の臨床開発といえば、業務が標準化されていない「徒弟制の世界」でした。取り扱う新薬候補も「低分子化合物」が中心でした。それが、この30年間に、取り扱う治験薬は「低分子化合物」から「タンパク製剤」「再生医療等製品」さらには「治療アプリ」と多種多様です。しかし、対象に「漢方薬の新薬開発」は存在しなかったのです！そんな「古くて新しい漢方薬の治験」が、なんと母校の富山大で始められるというではないですか。お世話になった母校の卒業生として、自分が30年間携わってきた臨床開発の知見で何かしら役に立ちたいと思いつつ、現在、参画させていただいております。参画してみて気付いたことは、30年前には「超マイナー」な臨床開発領域だったのに、今ではPMDAで活躍する同級生や、製薬企業の臨床開発部門で活躍される先輩・後輩、独立されて臨床開発領域で起業された方など、臨床開発に携わられている先輩・後輩の皆さんが多いことでした。富山大で開始された「古くて新しい漢方薬の臨床開発」に関与してみて気付いた発見、それは「まだまだ、富山大が輩出した臨床開発のツワモノ」がいるだろうこと、そして、その方々が富山大・富山に集結すれば・・・と臨床開発にワクワクする想い

を巡らせたことでした。

5年目を迎えるに あたっての回顧

(㊦、H31年卒) 福 田 拓 己

私は知的好奇心が強い人間であることを社会人生活を通じて理解しました。

正直、学生の頃、研究というものが好きではありませんでした。卒業研究は、ラボの先生のご助力もあり、要領よく卒なくやっただけというような印象です。研究に関してはほとんど成果を出していないにも関わらず、「私なんか？」という気持ちでしたが、当時の卒業式で、大変榮譽にも学部生を代表して答辞を務めさせていただきました。この経験は私にとって、自身のことを考えさせるきっかけになっていたのかなと感じています。

就職してから学生の頃には学べなかった数多くのことを学びました。医薬品製造に1年間従事し、現部署に異動しました。ここでは、理化学分析、製剤、GMP、統計、レギュラトリー、レジストレーション及びプロジェクト運営などもうすぐ社会人5年目にして多くのことを経験させていただきました。その中で私はひとつのことの理解を深めていくよりも、知らなかったことを新しく知っていくことが楽しいことに気づきました。その契機になったのは、当局への申請対応をさせていただいたことです。新薬の申請ではないですが、既存承認医薬品の承認事項一部変更申請（いわゆる一変）の主担当として申請資料を作成しました。申請に必要なデータどりに始まり、統計処理、日本薬局方、ICHガイドラインや製造販売指針などこれまでにほとんど触れてこなかったものに触れました。まるでわからないことばかりでしたが、上司、薬事部門や品質保証部門にご指導いただきながら承認まで

成し遂げることができました。振り返ると、この時に感じたことは私にとっての財産であり、新しいことを知る・体験することのおもしろさを意識する経験だったと思います。

この経験があつてから特に仕事においては、新しいことに挑戦することが苦ではなく、自身にとって新しい財産をくれるものだというマインドを持てるようになりました。現在もいくつかの社内プロジェクトに参加させていただき、非常に貴重な体験をしています。これから困難な壁や課題に当たった時には、好奇心をもって情報を集めて乗り越えていき、おもしろさを感じて仕事ができたら良いと思っています。上司の受け売りですが、「情報は待つものじゃなく、自分から取りに行くもの」というマインドを忘れずに、好奇心を持って仕事に励みたいです。

ゴルフクラブ便り

私どもゴルフ同好会のメンバーで51回卒の古市泰宏さんが2022年10月8日膵臓がんによりご逝去されました。先輩の功績は今年の遠久朶に記載されておりますのでご覧下さい。さて、99回のコンペはGWの翌週5月11日に開催した。場所は千葉県野田市の紫カントリークラブあやめコースで行われた。今回も天気予報が日々変わる中、快晴に恵まれ10名の仲間が熱戦をかわした。昨今カート上でスコアの集計が可能になり、1打毎の順位が見られ従来になく楽しみが増しております。

最後にハンデーが開示されますので表彰者も油断を許せなく、今回の優勝は44回卒の高木良造さんでした。初めての受賞で隠しホールの恐ろしさを感じられたと感想を述べられておりました。準優勝は58回の石川さん、3位は56回の金さんがBG賞を合わせて受賞しました。次回は秋に一泊にて100回の記念コンペ

を開催する事を約束して解散した。

さて、10月に記念大会を設定し、今までに参加されていた方々を含め宿泊の都合や翌日のプレイ参加をハガキにて確認をお願いしました。しかしながらコロナ感染の波が押し寄せて、楽しいはずの開催を難しくなっていました。早速に感染症の情報を見ながら来年の4月又は5月ころを目途に延期をする旨の案内をさせて頂きました。感染の波が8波の入口付近まで来ているとのことで予断を許さない状況ですが、早急に回復基調に戻るように願うばかりです。無事開催された際には皆様にも報告させて頂きます。

2022年12月記

(㉞、S43年卒 幹事 石橋 嘉夫)

ゴルフ同好会からの お願いとお誘い

諸先輩方の熱意と薬窓会首都圏支部の支援のお陰で「100回記念ゴルフコンペ」が開催されます。

さて引き続き101回へと発展・継承を望んでいます。

今まで未参加の方の参加を求めています。人生100年時代の中で、ゴルフ愛好者、再開を希望する方、初めてトライする方、どんどん挑戦してください。

☆先輩、同期、後輩でゴルフ好きの方をご紹介ください。

☆正式コンペ以外でも、プレーにお誘い合わせください。

㉞、S44年卒 金 知出 (KIM, chi-chul)

連絡先

〒221-0052

横浜市神奈川区栄町10-35 W3404

Tel&Fax : 045-620-3932

携 帯 : 090-4615-8939

E-mail : ckim9290@docomo.ne.jp

100字通信

㉟、S48年卒 中西 憲幸

朝食担当

連れ添いが昨年8月にスポーツジムで転んで、左手首を骨折しました。利き腕ではないものの不自由なので、朝食を準備から後片付けまで担当することになりました。私は早起きなので、全く苦にはならず、楽しんで和食中心の朝食を作っています。

㊱、H2年卒 紺谷 徹

オリックスバファローズが勝つたびにファンの嫁の機嫌が良くなるので、ついつい一緒に応援するようになりました。昨シーズン終盤までは絶望感漂う状況が、あれよあれよという間に日本一。嫁の機嫌にシンクロして、家族平和が長続きしました。さてさて今年は…?

㊲、H30年卒 丸茂 勇輝

今年の2月に人生初めての沖縄旅行に行ってきました。ANAのキャンペーンで格安のフライトが取れたのですが、レンタカー代が高騰しており、相場の2~3倍高いものしかなく、結果的に高くついた旅行となってしまいました…

㊳、H9年卒 木村 徹

2023年4月より城西大学薬学部薬科学科(4年制の薬学)に異動することになりました。埼玉県の水戸市にある、自然に囲まれた大学です。新天地でも楽しく頑張りたいと思います。お近くに来られた際には、遊びに来てください。

⑨7、H22年卒 宅間祐太郎
応援しているベ이스ターズが昨年は2位だったのもあり、初めてCSを観戦しに行きました。最後に球場に足を運んだのは優勝年の翌年ぐらいだったと思うので実に2X年ぶりの生観戦でワクワクでしたが、盛り上がりながらもコロナ禍だったのもあり静かな応援に徹していました。今年こそは優勝に向けて声出し応援をできる年にしたいです。

⑨6、S54年卒 道見 茂樹
コロナ感染が始まり、既に3年経過。様々な不都合が生じたけど、一つ良かったのはテレワークが導入されたこと。現在、週1～2日の在宅勤務ですが、1日にできることが増えました。通勤時間がもったいない。

⑨4、H9年卒 宅和 知文
4月にコロナで控えていたマラソン大会に復帰することができそうです。コツコツと気の合う仲間と走り続けていましたが、果たして完走できるでしょうか。そんなコロナ禍の中でしたが、今年初めに新しいランニング仲間を迎え、その彼を初めてのフルマラソン完走まで導けたことは、密かな喜びです。

⑨5、H10年卒 高瀬 明子
新型コロナウイルス感染の行動制限がだいぶ緩和された2022年は多くのことが再開できましたが、その1つは、会社のクラブ活動での華道（池坊）のお稽古です。お稽古後はお花を家に持ち帰り、再び家で花器にいけますので、家にも彩りがプラスとなっています。

⑨9、S26年卒 米丸 洋子
今回、会費納入者一覧のトップに私の名前があることに驚いてしまいました。先輩諸氏のお消息が気になりながら、後輩の皆さんのご活躍を頼もしく思い、これからも一層のご発

展をと祈ります。39回生も首都圏では私一人になりました。

⑨5、S33年卒 大郷 利治
何とか日々過ごしています。依然として感染が続くオミクロン株。行動範囲がつくば市内が実情です。

⑨5、S33年卒 橋浦 十八
春の緑は本当に輝き美しい。長い間生かされていることに心より感謝しております（88歳）。歴史の重みは益々大切に育てましょう。

⑨6、S34年卒 齊藤 諒三
6月25日（土）は千葉県能楽連盟会長として、第23回「謡曲と仕舞の会」を開催のため、参加できません。次回のオンラインを楽しみにしております。謡曲の同（愛）好者がおられたらご紹介願います。

⑨7、S35年卒 梅原 弘
認知症とがんに捕まらないように逃げ回っています。ラジオ体操（22年）、書道（29年）、俳句（14年）、グランドゴルフ（12年）

⑨9、S46年卒 石井 誠司
薬窓会ゴルフコンペも100回以降も継続することになりました。若手の方のご参加を期待します。

⑨4、H9年卒 膝附 由香
Withコロナになって、テレワークより出社する日の方が増えてきました。毎朝、洋服選びに悩んでいたら、2年間ほとんど洋服を買っていなかったことにふと気づいた、今日この頃です。

⑨5、H10年卒 川邊 香代
コロナ禍をきっかけにキャンプブームが加

速しているようですね。私も漏れなくこのブームに乗ってキャンプを再開しました。幼少期は家族で地元の北海道を周遊しましたが、最近は友人とペットも一緒に楽しんでいます。

令和4年度 首都圏支部活動報告

1. 定期総会

令和4年度首都圏支部定期総会は、6月25日（土）14時より現地とオンライン（Zoom）のハイブリッド方式にて実施いたしました。

2. Zoomでの集い

昨年度より開始したZoomでの気軽な集まりの会は、今年度は感染状況を鑑みながらハイブリッドで（会場とオンライン）にて9月16日（金）に開催いたしました。会場、オンラインともご参加いただいた方々みなさまに、お食事しながらの会話で楽しい一時を過ごしていただくことができました。

3. 幹事会

令和4年4月より毎月1～2回、オンライン（Zoom）にて開催。

2022年度 首都圏支部役員

支部長 : ㉞、H10年卒 高瀬 明子
 副支部長 : ㉟、S61年卒 阿部 浩之
 ㉟、H8年卒 平岡 良隆
 幹事長 : ㉟、S54年卒 道見 茂樹
 副幹事長 : ㊱、H2年卒 紺谷 徹
 ㊱、H元年卒 畠山 伸二
 ㊱、H22年卒 宅間 祐太郎
 幹 事 : ㊱、S48年卒 中西 憲幸
 ㊱、S46年卒 加藤 健二
 ㊱、H2年卒 齋藤 みのり
 ㊱、H9年卒 膝附 由香
 ㊱、H9年卒 木村 徹
 ㊱、H9年卒 宅和 知文
 ㊱、H10年卒 川邊 香代
 ㊱、H30年卒 丸茂 勇輝
 監 事 : ㊱、S47年卒 松本 茂外志

総会参加者・年会費納入者 推移

	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
総会参加者	61名	72	70	75	—	50	45
年会費納入者	300名	287	283	286	259	246	221

令和4年度会計報告

(令和4年4月1日～令和5年3月31日)

I. 収入の部			単位 円
項 目	予 算	実 績	
前年度繰越金(普通預金)	2,895,483	2,895,483	
年会費	600,000	455,217	
総会参加費	0	0	
普通預金利息	24	21	
合 計	3,495,507	3,350,721	

II. 支出の部			単位 円
項 目	予 算	実 績	
総会費	90,000	126,500	
会合費(幹事会等)	10,000	0	
事務通信費	50,000	58,701	
同好会補助費	0	0	
会報発行費	400,000	365,438	
出張費	0	75,000	
事務局費	66,000	66,000	
次年度繰越金(普通預金)	2,879,507	2,659,082	
合 計	3,495,507	3,350,721	

令和5年度予算(案)

(令和5年4月1日～令和6年3月31日)

収入の部		支出の部	
項 目	収 入	項 目	金 額
前年度繰越金(普通預金)	2,659,082	総会費	150,000
年会費	600,000	会合費	10,000
総会参加費	30,000	事務通信費	10,000
普通預金利息	20	同好会補助費	40,000
		会報発行費	400,000
		出張費	90,000
		事務局費	66,000
		次年度繰越金(普通預金)	2,523,102
合 計	3,289,102		3,289,102

令和4年度 支部年会費納入者一覧

(合計 221名)

※令和4年4月から令和5年3月末までに年会費を納入された方の一覧です。

回	年卒	氏名	回	年卒	氏名	回	年卒	氏名
37	昭和24	大和宗雄	48	昭和36	川上 惇	53	昭和41	木村信子
37	昭和24	松岡邦衛	48	昭和36	川上芳子	53	昭和41	坂本理英子
39	昭和26	米丸洋子	48	昭和36	久保一夫	53	昭和41	林 聰
40	昭和28	眞舩恒雄	48	昭和36	熊木健治	53	昭和41	深田和代
41	昭和29	上銘外喜夫	48	昭和36	定留温子	53	昭和41	曲淵徹雄
42	昭和30	種谷 豊	48	昭和36	樋口明彦	54	昭和42	小木曾周子
42	昭和30	渡邊 静	48	昭和36	船場定信	54	昭和42	佐藤和恵
43	昭和31	久郷正孝	48	昭和36	前田伸子	54	昭和42	庄司孝市
43	昭和31	車田知之	48	昭和36	三浦 晋	54	昭和42	庄司幸子
43	昭和31	古徳 治	48	昭和36	村杉和子	54	昭和42	長谷見蓉子
44	昭和32	大村恭子	48	昭和36	吉田誠一郎	54	昭和42	森川礼子
44	昭和32	紙谷得子	48	昭和36	吉田光昭	54	昭和42	竹内美千代
44	昭和32	車田千秋	49	昭和37	小川信吾	55	昭和43	石橋嘉夫
44	昭和32	鈴木芳子	49	昭和37	加藤昭彦	55	昭和43	井上みどり
44	昭和32	高木良造	49	昭和37	鈴木国男	55	昭和43	太田晴美
44	昭和32	高瀬清孝	49	昭和37	林 幸子	55	昭和43	滝沢春美
45	昭和33	大郷利治	49	昭和37	廣江光代	55	昭和43	牧野由紀子
45	昭和33	児玉英篤	49	昭和37	三尾美和子	55	昭和43	井上満子
45	昭和33	佐藤 忠	49	昭和37	見義治子	55	昭和43	奥村啓輔
45	昭和33	佐藤池鶴子	50	昭和38	飯田武治	55	昭和43	山口節子
45	昭和33	竹道孝慶	50	昭和38	井田勝三	56	昭和44	加藤正子
45	昭和33	橋浦十八	50	昭和38	木原幸弘	56	昭和44	金 知出
46	昭和34	川畑耕祐	50	昭和38	輿水誠子	56	昭和44	鈴木英世
46	昭和34	齊藤諒三	50	昭和38	定塚紀志子	56	昭和44	田村きく江
46	昭和34	結城澄子	50	昭和38	野口正喜	56	昭和44	都築正明
46	昭和34	和志武行子	50	昭和38	福田昌平	56	昭和44	深澤 宣
47	昭和35	伊勢谷篤弘	50	昭和38	前田一郎	56	昭和44	山本寿美子
47	昭和35	市中滋郎	51	昭和39	島田庄蔵	56	昭和44	山岸悦子
47	昭和35	梅原 弘	51	昭和39	島田輝子	56	昭和44	横山司甫
47	昭和35	小国益男	51	昭和39	諏訪庸夫	56	昭和44	加藤正子
47	昭和35	須藤昌二	51	昭和39	塚越章司	57	昭和45	天笠之珠子
47	昭和35	関 誠	51	昭和39	塚越由美	57	昭和45	伊藤要一
47	昭和35	野田久正	51	昭和39	古市泰宏	57	昭和45	北野栄一
47	昭和35	古川貞子	52	昭和40	小野澤カツ子	57	昭和45	中島和彦
47	昭和35	室生知子	52	昭和40	是枝 潤	57	昭和45	藤村元成
47	昭和35	橋 眞郎	52	昭和40	星野洋子	57	昭和45	本田伊都子
48	昭和36	油木劭之	53	昭和41	安西慶子	57	昭和45	松林久一

回	年卒	氏名	回	年卒	氏名	回	年卒	氏名
57	昭和45	奥村淳子	64	昭和52	西山 祥	77	平成2	河南三郎
57	昭和45	古屋典子	64	昭和52	真船英一	77	平成2	紺谷 徹
57	昭和45	米澤伸子	65	昭和53	渡辺茂美子	77	平成2	的場義典
58	昭和46	石井誠司	65	昭和53	山田健久	77	平成2	山本善一
58	昭和46	加藤健二	66	昭和54	新井一郎	77	平成2	齋藤みのり
58	昭和46	河内秀明	66	昭和54	鹿田史紀	78	平成3	坂東裕志
58	昭和46	千田耕平	66	昭和54	金子美代子	78	平成3	松本千香
58	昭和46	穂苺 茂	66	昭和54	川崎英之	82	平成7	井上博文
58	昭和46	松田閑枝	66	昭和54	金原祐吉	82	平成7	大内めぐみ
58	昭和46	村田悦郎	66	昭和54	杉原圭亮	82	平成7	鏑木淳平
58	昭和46	吉富恭助	66	昭和54	原 信行	82	平成7	海野春香
59	昭和47	駒田由美子	66	昭和54	真船恭子	83	平成8	東 美恵
59	昭和47	清水善行	66	昭和54	道見茂樹	84	平成9	平岡良隆
59	昭和47	白瀧義明	66	昭和54	道見優子	84	平成9	金子卓嗣
59	昭和47	松本茂外志	66	昭和54	坂本真理子	84	平成9	正力美香
60	昭和48	大西美知子	69	昭和57	小林真弓	84	平成9	膝附由香
60	昭和48	加藤マリ子	69	昭和57	須藤喜子	84	平成9	遠藤久美子
60	昭和48	田中加代子	69	昭和57	塚本尋子	84	平成9	木村 徹
60	昭和48	末木愛子	69	昭和57	野尻幸子	84	平成9	宅和知文
60	昭和48	鈴木むつ子	69	昭和57	竹内 誠	84	平成9	石崎雅之
60	昭和48	千田豊子	70	昭和58	浦本博志	85	平成10	大島(川邊)香代
60	昭和48	中島徳子	70	昭和58	遠藤義之	85	平成10	堀口(高瀬)明子
60	昭和48	中西憲幸	70	昭和58	茂呂今日子	85	平成10	岡 常夫
60	昭和48	水野洋子	71	昭和59	大川恵子	86	平成11	大野いづみ
60	昭和48	丸山公代	71	昭和59	黒田豊志	86	平成11	鶴飼政志
61	昭和49	富永節子	71	昭和59	木暮政恵	86	平成11	鈴木智之
61	昭和49	中村直隆	72	昭和60	安達俊幸	86	平成11	戸前昌樹
61	昭和49	富永英嗣	72	昭和60	信濃豊進	92	平成17	成瀬明穂
62	昭和50	西山信右	72	昭和60	根本 了	98	平成23	小林聡子
62	昭和50	萩野洋子	72	昭和60	根岸邦枝	99	平成24	今井亮太
62	昭和50	八谷京子	72	昭和60	畑中朋美	105	平成30	林滉一朗
63	昭和51	荒牧すが子	72	昭和60	上田伊津子	旧職員及び大学院修了生		中込和哉
63	昭和51	高橋裕子	75	昭和63	池田 靖	旧職員及び大学院修了生		根本信雄
63	昭和51	萩野幸司	76	平成元	朝倉 渡	旧職員及び大学院修了生		竹口紀晃
63	昭和51	本郷富江	76	平成元	畠山伸二	現教員		酒井秀紀
64	昭和52	坂口一夫	76	平成元	佐藤ゆかり	現教員		松谷裕二
64	昭和52	鈴木利之	76	平成元	小林史明			

－首都圏支部年会費振込みのお願い－

令和3年度の総会において支部年会費2,000円への値上げに賛同いただき、それによって令和3年度の支出超過額は10万円弱まで減額することができました。皆様のご理解とご協力に御礼申し上げます。

しかしながら、令和4年度は支出超過額が増加し、年会費納入者数も20名近く少なくなっており、引き続き皆様のご協力が必要です。

当会には他に収入源はなく、皆様一人一人の会費により会を運営しなければならないことを是非ご理解賜りたく、首都圏支部年会費の振込みをお願いいたします。

なお、コンビニ用の振込用紙には振込手数料（200円）を含めた金額が印刷してあり、首都圏支部には丁度2,000円が入金されることとなります。振込手数料はこれまで150円でしたが、コンビニの手数料改定のため200円に変更となりましたので宜しく願いいたします。また、会費納入を銀行振込でも行っていただけるよう、口座情報を下記に記載しましたので、振込用紙による振込みよりもインターネットバンキング経由に慣れている方、年会費の他に寄付いただける方には、ぜひご利用いただければと思います。

会費を振り込んでいただいた方は、会報「首都圏遠久朶」にお名前を掲載いたします。よろしく願い申し上げます。

北陸銀行新宿支店

口座名：富山薬窓会首都圏支部

口座番号：普通2552140

✉ メーリングリストへの登録のお願い ✉

昨年は首都圏支部総会を現地開催とWEB形式のハイブリッドで開催することができました。今後も、皆様の個々の事情に配慮しながら、現地とWEB形式の併用で開催することを考えております。その際、WEB参加を希望される皆様には、事前に登録頂いたメールアドレスに招待メールをお送りし、そこに記載された情報をクリックいただくことで、パソコンやスマートフォンなどから参加いただくこととなります。

この機会にぜひ、登録をお願い致します。右にあるQRコードをスキャンすると、富山薬窓会首都圏支部メーリングリスト登録画面になりますので、そこにお名前、メールアドレス、卒業年（又は回）を入力してください。また、下記アドレスからも同じように登録できます。（既に登録いただいている方は再度の登録不要です。登録したかどうかよくわからない方は、重複してもまったく構いませんので、登録をお願い致します。）



<https://forms.gle/NLwy1BmSPUuPMZZ98>

登録いただいたアドレスは薬窓会首都圏支部からの連絡以外に利用いたしません。個人情報の管理には十分配慮いたします。ご協力宜しくお願い致します。

— 編集後記 —

長かった冬が終わろうとしています。この編集後記を書き認めている3月中旬の現在、既にマスクの着用は任意になりました。しかし、まだ私を含め多くの方はマスクの着用を辞めていない状況です（花粉症の影響もあるかとは思いますが）。長かったコロナ禍による制限も今年のゴールデンウィーク明けには5類になることで解除されるので、徐々に今までの生活に戻って行ってほしいですね。今回の首都圏支部総会では4年ぶりに簡素ではありますが懇親会を実施する予定で考えています。今年も昨年同様ハイブリッドでの総会の開催を実施する予定ではありますが、もしご都合着くようであれば是非とも会場まで足をお運びいただければ幸いです。

さて、3月現在世間はワールドベースボールクラシックで盛り上がっています。イタリア戦は視聴率48%と現時点では今年1位らしいです。準決勝、決勝はアメリカになりますが、視聴率がどうなるか、個人的には興味ありますし、日本の活躍を心から応援しています。今年のスポーツのビッグイベントは野球だけではありません。ラグビーの世界カップも9月からフランスで始まります。4年前の2019年、日本開催で大いに盛り上がったのは皆さんも記憶されていることかと思えます。前回ベスト8まで上り詰めた日本が今年はどう活躍してくれるのか、こちらも大変楽しみです。

最後になりますが、昨年度の本部遠久朶でも文章を寄稿されており、富山大学初のノーベル賞も期待されていましたが古市先生が昨年10月に亡くなりました。ここに謹んでお悔やみ申しあげ、故人の安らかなるご冥福を心よりお祈りいたします。

（副幹事長 ㊦、H22年卒 宅間 祐太郎）

事務局等連絡先

富山薬窓会首都圏支部事務局

(株) 同窓会事務局：info@egaomax.com

電話：0120-10-9870

富山薬窓会首都圏支部幹事長

道 見：toyamayakugakubu@yahoo.co.jp

令和5年度「富山薬窓会首都圏支部総会」のご案内

日 時：令和5年6月24日（土）14：00～17：00（開場13：50）の予定

*総会案内は下記の富山薬窓会ホームページ内の首都圏支部のページでもお知らせいたします。

HP：<http://www.pha.u-toyama.ac.jp/okuda/shibu/syutoken/index.html>

場 所：「AP東京八重洲通」12階 F室

住 所：東京都中央区京橋1-10-7（東京駅八重洲口地下街24番出口）

HP：<https://www.tc-forum.co.jp/kanto-area/ap-yaesu/>

開催形式：現地とオンラインのハイブリッド *交流会：総会后30分程度

会 費：総会参加費：現地参加、WEB参加共に無料です

交流会参加費：1,000円（卒後5年までは無料）*交流会は現地参加のみ

話題提供 1 朝倉 渡氏（第76回）

『PMDAでのお仕事』（医薬品医療機器総合機構）

2 神保 和功氏（第93回）

『100年麴屋にみる 企業価値と自分らしさ』（有神保栄三久商店）

* 同期の方々をお誘いいただき、多くの方のご参加お待ちしております。





2022年9月16日（金）第3回Zoomの会



令和4年度首都圏支部総会（会場とZoomのハイブリッド開催）（令和4年6月25日）